

東アジア戦略概観

East Asian Strategic Review

2009

防衛省防衛研究所

The National Institute for Defense Studies, Japan

はしがき

本書は、東アジアの平和と安定を確保するためには、この地域の安全保障環境について客観的な理解が必要であるという認識に基づき、防衛研究所の研究者が独自の視点から東アジアの安全保障環境を分析し、広く内外に提供するものである。記述の対象期間は、2008年1月から12月までの1年間が中心である。

本書は、2008年に生じた東アジアの安全保障上重要な事象について、国・地域別に章を立てて記述した。また、この地域の安全保障を考える上で重要と思われる中長期的な課題についても、2つの章を設けて分析している。今回は、第1章で、原子力カルネッサンスが核不拡散体制に及ぼす影響とその対処策について分析した。第2章では、気候変動・エネルギー・食糧問題の現状と展望および安全保障に及ぼすその影響について分析した。国・地域別の各章では、核保有国既成事実化を進める北朝鮮の内外政策や韓国の保守政権の対北朝鮮政策、北京オリンピックの開催により大国としての存在感をますます高めつつある中国の動向、四川大地震やミャンマーのサイクロン被害をめぐる国際協力の動き、ASEANの域内・域外関係の現状と問題点、国力回復により強硬姿勢を強めているロシアの外交や軍改革の現状と展望、オバマ米国新政権が直面している内政、外交および安全保障上の諸課題、日米同盟および日本の防衛力の今後の課題などについても分析を行っている。本書が、読者にとって東アジアの安全保障環境を理解する一助となり、議論をさらに深める契機となることができれば望外の喜びである。

本書は防衛研究所の編集・執筆グループが研究者の立場から作成したものであり、政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。各章の執筆担当者は、小川伸一研究部長（第1章）、小野圭司室長・秋本茂樹所員・富川英生教官（第2章）、室岡鉄夫主任研究官・阿久津博康主任研究官（第3章）、飯田将史主任研究官・齊藤良所員・増田雅之教官（第4章）、庄司智孝主任研究官（第5章）、兵頭慎治主任研究官・工藤仁子所員（第6章）、片原栄一室長・塚本勝也主任研究官（第7章）、高橋杉雄主任研究官（第

8 章)である。また編集作業は、坂口賀朗上席研究官(編集長)以下、小塚郁也主任研究官、片原栄一室長、阿久津博康主任研究官、奥平穰治主任研究官、西野正巳教官、山添博史教官、新垣拓教官が担当した。

平成 21 年(2009 年)3 月

防衛研究所 研究部上席研究官
編集長 坂口賀朗